



学校だより
ながや

令和元年度 第5号
令和元年 8月26日
横浜市立永谷小学校
校長 平野 好子

前期後半スタートです

校長 平野 好子

34日間にわたる夏休みが終わりました。

今年は梅雨明けが遅く、夏休みに入るころから本格的な暑さとなりました。梅雨明け以降は暑い日が続きました。夏季水泳教室等で目標に向かって頑張る子どもたちや地域のお祭りで楽しそうに過ごす子どもたちに出会いました。

区の水泳記録会は、永野小、丸山台小と本校の3校で本校を会場とし、熱中症予防のため開始時刻を早めて行いました。また、泳ぐ前の待機場所にテントを張り、早めに招集をかけることでプールサイドにいる時間を短くしたり、途中で全員が泳がずに水につかる入水タイムをとったりするなどの対策もとりました。記録会では、子どもたち一人ひとりが、目指す目標に向かってチャレンジする姿、仲間を応援し、頑張りをたたえる姿を多く見て、大変うれしく思いました。今年は、男女ともにリレー、自由形、平泳ぎでよい記録を出しました。10名の子どもたちが区の代表として、8月23日（金）に横浜国際プールで行われた横浜市立小学校水泳大会に参加しました。ここでも、子どもたちは、自分たちの力を精一杯発揮して輝いていました。

夏季水泳教室に参加した児童に限らず、子どもたちはこの夏休みに、各家庭で、様々な体験を通して、それぞれの思い出を作ったことと思います。

自分自身の夏休みの研修で、勧められた漫画がありました。その中で講師の方が紹介された一文が私の心に残っています。

『知りたいことのおおよそ半分はネットや本で調べればわかることだが、どこにも載っていない「もう半分」を知るためには、自分で考え出すか、経験するしかない。』

日頃、私たちは意識していないだけかもしれませんが、知っているようで知らないことはたくさんあります。知らないことは、今の時代、ネットで何でも調べられるのかもしれませんが、しかし、「目標を達成したときの気持ち」や「がんばっていたつもりだったのに納得できる結果が出せなかったときの気持ち」などネットや本に載っていないことはたくさんあります。誰かに質問して答えをもらっても、それで知ったことにはなりません。「知ることができた」と満足するためには、人から答えをもらうのではなく自分で考え出すか、あるいは、体験したりどこかで経験したりするしかないのかもしれないかもしれません。

夏休みの経験によって「知りたいこと」を知り得た子どもたちも多くいることでしょう。前期後半が始まります。これからも、子どもたち一人ひとりが「知りたいこと」は何かを意識できるようにしたいと思います。そして、「知りたいこと」を知るために、子どもたちが自ら、考え出し、経験できるようこれからも指導・支援していきたいと思ひます。

暑さはまだ続きます。子どもたちの健康・安全を最優先に考え、子どもたちが輝けるようなたくさんの場をつくっていきます。

地域の皆様・保護者の皆様のご協力・ご支援をお願いします。